

【20代女子学生の生理痛および婦人科疾患に関する実態意識調査】

約2人に1人が生理痛があるのに一度も婦人科に行ったことがないことが明らかに。「きっかけがなかった」「費用がかかりそう」「大きな病気ではないと思っている」が上位にまた、「経膈超音波検査」「子宮頸部細胞診」、いずれの検査も約半数が内容を知らず、受診経験者は1割強に留まる。

クレアージュ東京にて「経膈超音波検査」と「子宮頸部細胞診」をセットで受診できるプランを開始

この度、女性のための人間ドック「クレアージュ東京 レディースドッククリニック」（場所：東京都千代田区有楽町）は、4月9日「子宮の日」に際して、20代の女子学生200名を対象に「生理痛および婦人科疾患に関する実態意識調査」を実施しました。

【20代女子学生の生理痛および婦人科疾患に関する実態意識調査】

約2人に1人が生理痛があるのに一度も婦人科に行ったことがないことが明らかに。

また、「経膈超音波検査」「子宮頸部細胞診」、
いずれの検査も約半数が内容を知らず、受診経験者は1割強に留まる。

CREAGE
T O K Y O
レディースドッククリニック

■調査背景

4月9日は「子宮頸がんを予防する日（子宮の日）」です。4（し）9（きゅう）の語呂合わせに由来し、子宮頸がんの検診受診率向上や、正しい知識の普及・啓発を目的として制定されました。子宮頸がんは20～30代の若い女性に多く発症するがんです。近年、企業検診に子宮頸がん検診をオプション追加する動きが広がる一方、大学の定期健康診断には婦人科検診が含まれておらず、女子学生が検診を受ける機会は限られています。実態を把握するべく、クレアージュ東京では全国の女子学生200名を対象に「生理痛および婦人科疾患に関する実態意識調査」を実施しました。

■調査サマリ**・“生理痛があるが、婦人科は未受診”**

回答者200名のうち約7割が生理痛を経験。さらにそのうち約3割は痛みにより授業を休んだ経験あり。しかし、生理痛がある140人のうち57%は婦人科に一度も行ったことがないことが明らかに。

・生理痛の裏に潜む疾患リスク、知らない人が過半数。

強い生理痛には子宮内膜症・子宮筋腫などの病気が隠れている可能性があることを、回答者200名のうち約半数が「知らなかった」と回答。実際に生理痛を抱える140人に絞っても、病気リスクを「知らなかった」は46%にのぼり、痛みがあっても病気との関連を認識できていない実態が浮き彫りとなった。

・子宮頸がんのリスク認知は広がりつつある一方で、まだ知られていない側面も。

回答者200名のうち約7割が子宮頸がんの罹患率が若年層女性に多いことを認識。また、約5割がHPVワクチンを接種していても罹患リスクがあることを認識しており、「子宮頸がん」に対するリスク認知は一定程度広がっていることが分かった。一方で、性交渉の経験がある場合に誰でも罹患リスクがあることを「知らなかった」人は44%にのぼり、まだ知られていない側面があることも明らかに。

・「経膈超音波検査」「子宮頸部細胞診」、いずれの検査も約半数が内容を知らず、受診経験者は1割強に留まる。

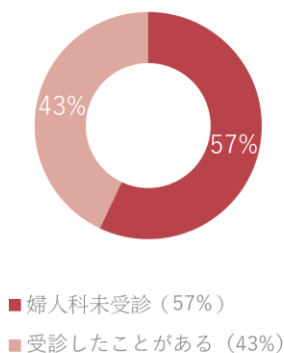
「子宮頸がん」を調べる「子宮頸部細胞診」、子宮内膜症・子宮筋腫等の診断に使われる「経膈超音波検査」、いずれの検査も内容を「知らない」と回答した人は、約49%にのぼった。一方、実際に受けたことがある人は両検査ともに1割強にとどまり、リスク認知が進む一方で、具体的な検査への接点がほとんどない実態が見えてきた。

■“生理痛があるが、婦人科は未受診”

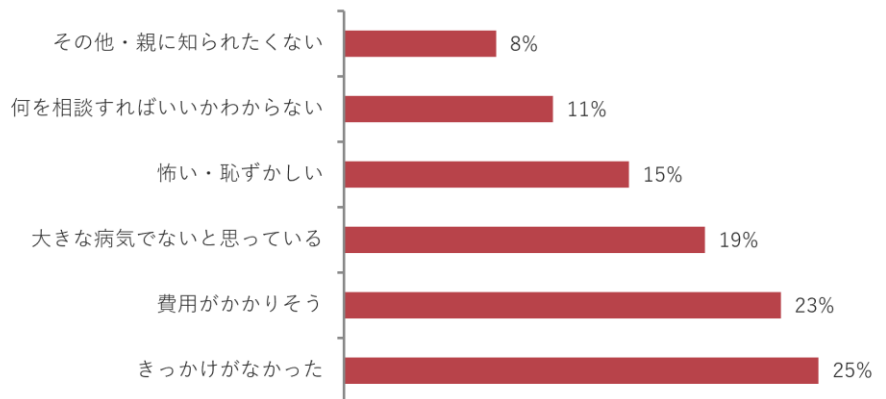
20代女子学生200名のうち、生理痛を経験したことがあると7割(140名)が回答。経験した不調として、「授業を休んだことがある」(約3割)、「市販薬なしでは乗り越えられない」(約3割)、「バイトやサークルを休んだことがある」(約2割)、「夜眠れないほどつらいことがある」(約1割)があがり、学業や日常生活に広く支障をきたしていることが分かりました。

一方で、生理痛を抱える140名のうち、婦人科・産婦人科を「一度も受診したことがない」と答えた人は57%(80名)という結果に。受診しない理由としては、「きっかけ・タイミングがなかった」(25%)が最多となり、次いで「費用がかかりそう」(23%)、「大きな病気ではないと思っている」(19%)と続きました。痛みを抱えながらも受診に至らない背景には、受診のハードルの高さだけでなく、生理痛を「病院に行くほどのことではない」と過小評価している実態もあることが分かりました。

生理痛がある140人の受診状況
(n=140)



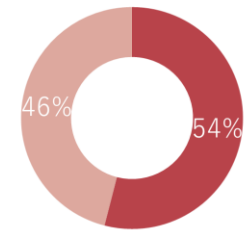
受診しない理由 (n=80)



■生理痛の裏に潜む疾患リスク、知らない人が過半数。

強い生理痛には子宮内膜症・子宮筋腫などの病気が隠れている可能性があることを、回答者200名のうち約半数にあたる54%（108名）が「知らなかった」と回答。実際に生理痛を抱える140名に絞っても、46%（65名）が病気リスクを「知らなかった」と答えており、痛みがあっても病気との関連を認識できていない実態が分かりました。また、子宮内膜症・子宮筋腫・卵巣のう腫などの疾患名をひとつも知らないと答えた人は34%（68名）にのぼりました。疾患名の認知率を個別にみると、「子宮内膜症」が46%、「子宮筋腫」が41%、「卵巣がん」が45%となっており、がんへの認知に比べ、生理痛と深く関わる子宮内膜症・子宮筋腫の認知は低い水準にとどまっていることが分かりました。

生理痛に病気が隠れている可能性を知っていたか（n=200）

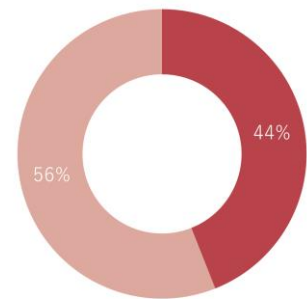


■ 知らなかった (54%)
■ 知っていた (46%)

■子宮頸がんのリスク認知は広がりつつある一方で、まだ知られていない側面も。

回答者200名のうち、子宮頸がんが20～30代の若い女性に多く発症することを認識していた人は65.5%（131名）にのぼりました。また、HPVワクチンを接種していても子宮頸がんになる可能性があることを「知っていた」人も50%（100名）と、子宮頸がんに関するリスク認知は一定程度広がっていることが分かりました。一方で、性交渉の経験がある場合に誰でも子宮頸がんの罹患リスクがあることを「知らなかった」人は44%（88名）にのぼりました。子宮頸がんの原因であるHPVは、性交渉の経験があれば誰もが感染する可能性があるウイルスですが、この基本的なリスクが十分に認知されていない実態が浮き彫りとなり、子宮頸がんリスクに対してまだ知られていない側面があることが分かりました。

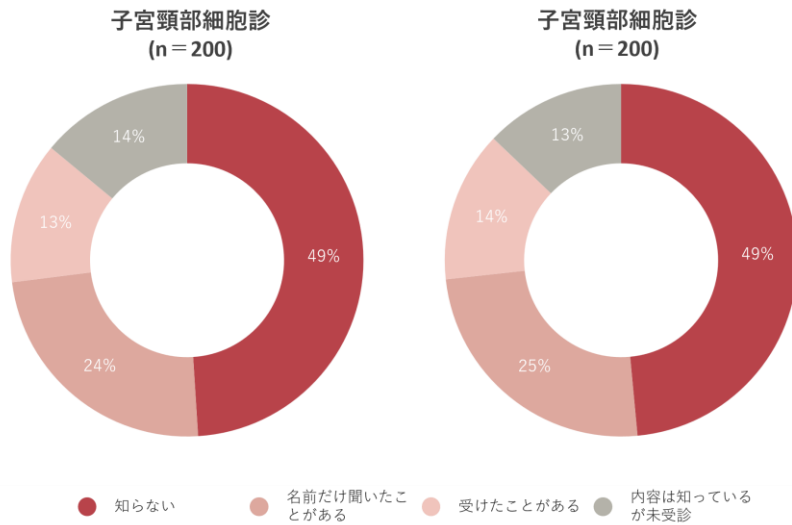
性交渉経験があれば誰でも罹患リスクがあることを知っていたか（n=200）



■ 知らなかった (44%) ■ 知っていた (56%)

■「経膈超音波検査」「子宮頸部細胞診」、いずれの検査も約半数が内容を知らず、受診経験者は1割強に留まる。

子宮頸がんを調べる「子宮頸部細胞診」について、内容を「知らない」と回答した人は48.5%（97名）、「名前だけ聞いたことがある」を合わせると72.5%（145名）にのぼりました。実際に受けたことがある人はわずか13%（26名）にとどまっています。同様に、子宮内膜症・子宮筋腫等の診断に使用される「経膈超音波検査」についても、内容を「知らない」と回答した人は48.5%（97名）、「名前だけ聞いたことがある」を合わせると73%（146名）にのぼりました。受診経験者は14%（28名）のみでした。トピックス1～3で示したとおり、子宮頸がんや婦人科疾患に対するリスク認知は一定程度広がっている一方で、実際にリスクを調べる手段である検査そのものへの認知・受診機会は極めて限られており、知識と行動の間に大きな隔たりがあることが分かりました。



■女子大学生と“生理痛および婦人科疾患”について考える座談会を開催

4月23日(木)、クレージュ東京にて、女子大学生6名をお招きしクレージュ東京 婦人科顧問医師大島乃里子先生とともに生理痛や婦人科疾患について考える座談会を開催しました。

座談会に参加した理由を伺うと、「なかなか知る機会がない。今日学んで、周りの友人にも正しい知識をシェアしていきたい」「なかなか大きな声で話題にしづらい内容。知らないまま社会に出ていくのも怖い。」「レディースドックに来たのは初めて。どんな空間なのか興味があった。」と、様々な声が。和やかな雰囲気の中、大島先生の講義が進みます。



「20代の子宮頸がん罹患率が高まっている。HPV初感染から約5年かけて進行するので、進行する前に定期検査で早期発見することが本当に重要。」という先生のお話に対しては「意外とゆっくり進行するのが驚き。予防や早期発見の重要性を知った。」「以前婦人科で子宮頸がんの検査をした時、どんな検査方法で何が分かるのか説明がないまま検査したので怖かったし、痛かった。次回は自分がなんの検査を受けているのか理解して臨みたい。」など、様々なコメントがあがりました。後半では生理痛に関する〇×クイズを実施し、議論を深めました。「ピルを飲むと将来不妊になるという噂を聞いたが本当か?」という学生の質問に対し、大島先生は「それは誤った情報。ピルは子宮内膜症の治療にも使用される薬。血栓などのリスクはあるため、そこは注意しないといけないが、不妊になるということはない。」と回答。「SNSの情報は鵜呑みにしないで、正しい知識を持たないと・・・」と理解を深める学生の皆さんなのでした。参加者からは「漠然と怖いテーマと感じていて避けていたが、何も知らないまま恐がるのは、良くないなと感じた。しっかり知識を学び、検診など、自分の意志で行動していきたい。」「女性だけでなく男性もHPVを持っているなんて知らなかった。男女問わずみんな座談会が出来たらもっと理解が深まるのかもしれない。」といった様々な感想をいただき、座談会は終了しました。

■「経腔超音波検査」と「子宮頸部細胞診」をセットで受診できるプラン開始

クレーージュ東京では、「経腔超音波検査」と「子宮頸部細胞診」をセットで受診できるプランを開始いたします。是非自分のからだと向き合う機会となりましたら幸いです。

経腔超音波検査：超音波を腔の中からあてて、跳ね返ってくる反射波を画像化し、子宮や卵巣の状態を調べる検査です。この検査では自覚症状のない子宮や卵巣の異常も鮮明に見ることができます。月経痛や過多月経の原因になっている疾患や、不妊につながる疾患を見つけることができます。

子宮頸部細胞診：経腔超音波検査に加え、子宮頸部の細胞を採取して異常な細胞の有無を検査する「子宮頸部細胞診」検査がセットになっています。子宮の入り口である子宮頸部を、ブラシのついた専用器具でこすり、検体を採取します。

予約期間：2026年4月23日(木)～6月16日(火)

予約方法：2026年5月7日(木)～6月30日(火)

予約フォーム：

<https://forms.office.com/pages/responsepage.aspx?id=xlN9yljpU0Od9hWG8EreeZvfCEyOyDhKi-cRGF3qQ95UMIJYVkdHT1ITSjdURTU1VVlyQ0RGRlg5Si4u&route=shorturl>

クレーージュ東京 レディースドッククリニック

- クリニック名：クレーージュ東京 レディースドッククリニック
所在地：東京都千代田区有楽町1-7-1 有楽町電気ビル 北館17F
アクセス：JR有楽町駅徒歩1分（中央西口・日比谷口）、日比谷駅直結（A3出口）
総院長：浜中聡子
健診受付時間：8:30～16:00
休診日：日・月
電話番号：0120-815-835（8:30～16:00）
ホームページ：<https://www.creage.or.jp/>

